巻頭言

「技術の伝承」

取締役専務執行役員　土木本部長
飯田　忠之

昨今の建設業界は，国の財政再建政策による公共投資の抑制が続き，建設投資は高度成長型から安定均衡型の重点投資政策へと移行してきております．そのため，建設市場の縮小に伴い技術と経営に優れた企業のみが生き残る淘汰の時代を迎え，過激な競争のもと低入札等の問題が発生しています．

そして，公共調達制度については，公共事業に対する社会・国民の信頼を得るべく公共工事の品質確保を推進する目的で「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）が平成 17 年 4 月から施行されました．また，平成 18 年 1 月からは改正独禁法が施行され，建設産業全ての企業がコンプライアンスの保持に努めているところであります．

このような環境の中で，今後の公共工事の入札契約は一般競争入札総合評価方式がますます増えていくものと思われます．総合評価方式は，建設業者の技術力や創意工夫を適切に評価し，競争に反映される方式であり，技術立社を自認する当社にとって他社との差別化を図る絶好の機会であります．

しかしながら，今迄の成績は必ずしも満足な結果を得ていないのが現状であります．これは工事評価，技術提案の評価についても同じような結果であり，現在，改善すべく対策を立て実行しているところであります．それは大別すると組織の再構築による総合技術力のアップと個々人の技術力アップであります．

技術力が必要とされている今こそ, PC 業界の先駆者である先輩達が築いてくれたピーエス三菱の技術力の伝承を活かしきり，技術者一人一人が自分の職務，職責を全うし成果を上げる時であります．

ここに昭和 33 年 8 月当社工事部発行の「現場の栞」第 1 項 心掛けを見ますと

１．合理的な施工，迅速，安価で良い製品．

２．技術的良心忘れちゃならぬ，PSC は生きている．

３．仕事は人の和が大事．

と書かれています．当時，既に物づくりの本質が記述され実践していたのであります．

これらは，50 年以上経過した今でも，施工技術者だけでなく，設計，製造，開発技術者，そして物づくりに関わる全ての人が心掛けたい言葉であります.

一部の人達は，技術の伝承については出来上がったものを記述し，またはデータベース化し，次々に伝達すれば技術を高めレベルを維持することが出来ると考えられています．しかし，ただ出来上がったものを一方的に伝えようとしても十分に伝わるはずがありません．組織の中の個々人が常に成長し続けている状態を作ることが肝要であります．自ら意識し，努力し，自分がむしり取ったものだけが身につくのです．本技報も活用し，着実に技術を自分の身にして欲しいものであります.

当社は，土木・建築部門を持つ総合建設会社であり，いろいろな技術を持ち合わせていますが，その核は PC 技術であります．付加価値のある PC 技術を核として，他社との差別化を図った技術を確立し，これからの厳しい建設産業の中で競合していかなければなりません.

そのためには，目先の収益の圧迫要因になっても技術競争の勝ち残りを目指し，他産業の先端技術にも目を向けて利用を検討し, PC 技術の基礎研究をはじめ応用研究に取り組む必要があります.

当社は, これからも技術立社として技術の伝承に努め, 技術的良心のもと物づくりに励み, 社会から信頼され，そして安全・安心して暮らせる自然と調和した美しい国土づくり，インフラ整備に貢献し続けていきたいものです.